摂食嚥下障害に対する看護職員の取り組み

～水飲みテスト（当院版）導入研修を実施して～

済生会松阪総合病院　嚥下委員会

奥田恵未　林真梨　間宮千和　角屋恵　中井佐奈

【目的】当院では嚥下評価は非常勤医師により行われており、必要時に迅速に施行できないことが問題となっていた。そこで水飲みテスト（当院版）を作成し、研修後に運用することで、安全に早期経口摂取を開始できると考えた。今回、水飲みテスト導入に際し、看護職員の摂食嚥下に関する知識・技術向上を目的に研修を実施し、その前後でアンケート調査を行い理解度の確認および課題を再確認したため報告する。

【方法】平成 29 年 11 月に看護職員全員に摂食・嚥下に対する認識や知識の現状を把握するためにアンケートを実施。アンケート内容は間接訓練、トロミのつけ方、食事介助、口腔ケアについてとした。12 月より常勤看護職員を対象に水飲みテスト研修会を開催し、研修終了後に研修の理解を調査した。

【結果】アンケート回収率は 98%、水分トロミおよび食事介助時の角度についての理解度はそれぞれ 73%、68%であった。研修会の参加率は 100%であった。研修後の理解度に対する自己評価は「よく分かった」が 86%「だいたい分かった」14%であった。

【考察】現時点での当院における看護職員の摂食嚥下に対する知識の現状が把握できた。水飲みテストの運用および安全な早期経口摂取推進に向けて、継続的な研修が必要と思われた。